

岡山県感染症週報 2015年 第14週 (3月30日～4月5日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

◆2015年 第14週 (3/30～4/5) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第12週 2類感染症 結核 3名 (幼児 女 1名、40代 女 1名、70代 男 1名)

第13週 2類感染症 結核 1名 (80代 女)

5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名 (80代 女)

急性脳炎 1名 (幼児 男)

後天性免疫不全症候群 1名 (40代 男)

第14週 2類感染症 結核 3名 (40代 男 1名、60代 女 1名、80代 女 1名)

4類感染症 レジオネラ症 1名 (70代 男)

5類感染症 後天性免疫不全症候群 1名 (20代 男)

■定点把握感染症発生状況

○インフルエンザは、県全体で435名 (定点あたり5.67→5.18人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

○感染性胃腸炎は、県全体で412名 (定点あたり6.50→7.63人) の報告があり、前週より増加しました。

○流行性耳下腺炎は、県全体で23名 (定点あたり0.46→0.43人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第15週 速報】

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました (4月8日)。

1. **インフルエンザ**は、県全体で435名 (定点あたり5.67→5.18人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。岡山県は、「インフルエンザ注意報」を発令し、注意喚起を図っています。地域別では、備北地域 (9.33人)、倉敷市 (8.63人)、備中地域 (7.50人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。全国の第13週 (3/23～3/29) 集計によると、岡山県の定点あたり報告数 (5.67人) は、高知県 (6.10人) に次いで全国で2番目に多くなっています。学校などでは新学期が始まり、集団生活の中での感染の機会が増えると思われまますので、ひきつづき感染予防に努めてください。県内の発生状況など詳しくは、「**インフルエンザ週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で412名 (定点あたり6.50→7.63人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、美作地域 (11.33人)、真庭地域 (10.00人)、岡山市 (8.00人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、依然として多くの患者が報告されています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など、詳しくは「**感染性胃腸炎週報**」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
3. **流行性耳下腺炎**は、県全体で23名 (定点あたり0.46→0.43人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。前週にひきつづき美作地域 (定点あたり3.00→3.33人) で患者数が多くなっており、大きな流行が発生する可能性がある発生レベル2となっています。この感染症は、ムンプスウイルスに感染することで発症するウイルス感染症で、「おたふくかぜ」とも呼ばれています。感染経路は、飛沫感染、接触感染であり、特に保育施設などではしばしば集団発生が報告されます。予後は一般に良好ですが、まれに無菌性髄膜炎、感音性難聴、精巣炎などの合併症を引き起こすことがあります。年齢が高くなるにつれて症状が重くなる傾向があり、成人が発症した場合は、合併症によって入院する例が比較的多くなっています。有効な特効薬はなく、治療は対症療法が中心です。効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することであり、集団生活に入る前にワクチンで予防しておくことが、最も有効な感染予防となります。

[流行性耳下腺炎 \(ムンプス、おたふくかぜ\) \(国立感染症研究所\)](#)

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2倍以上の減少 : 1.1~2倍未満の減少 : 1.1未満の増減
 : 1.1~2倍未満の増加 : 2倍以上の増加

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

インフルエンザ週報 2015年 第14週 (3月30日～4月5日)

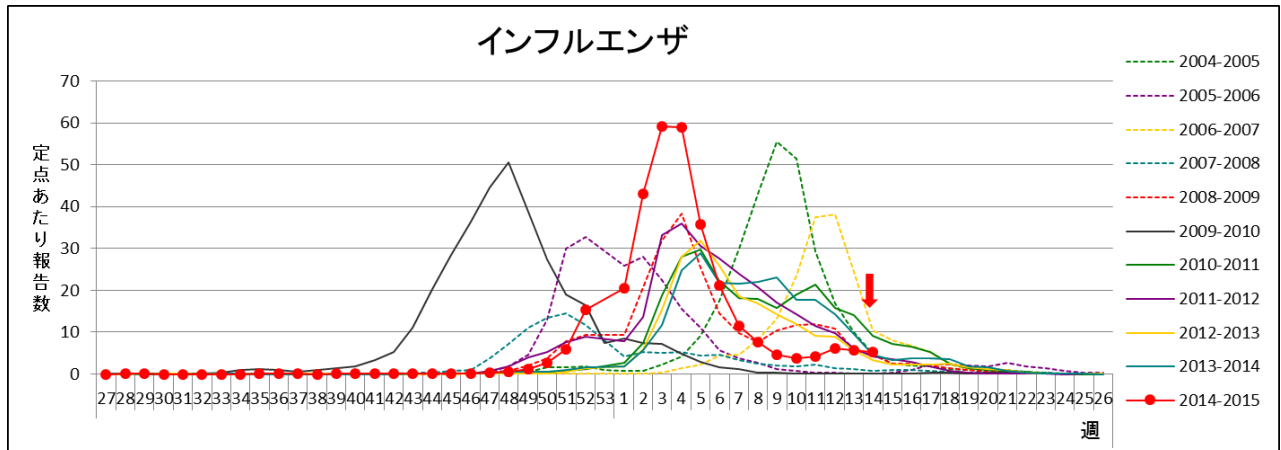
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で435名(定点あたり5.67 → 5.18人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

【第15週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました(4月8日)。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で435名(定点あたり5.67 → 5.18人)の報告があり、前週とほぼ同数でした(84定点医療機関報告)。第3～4週をピークに、第5週以降減少していましたが、第12週はわずかに増加しその後横ばいで推移しています。岡山県は、ひきつづき「インフルエンザ注意報」を発令し、注意喚起を図っています。

地域別では、備北地域(9.33人)、倉敷市(8.63人)、備中地域(7.50人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。また、岡山市、備中、真庭、美作の各地域では、患者数の増加がみられました。

流行のピークは過ぎましたが、学校などでは新学期が始まり、第15週には小学校での学年閉鎖も発生しています。まだしばらく流行が続くと思われるので、ひきつづき感染予防に努めてください。

**◆インフルエンザは依然として流行期にあります。
ひきつづき感染予防に努めましょう。**

【 予 防 】

- * 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- * 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- * 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- * 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

【 かかったかな?という時には 】

- * 早めに医療機関を受診しましょう。
- * 周りの人にうつさないように、「咳エチケット」を心がけましょう。
- * 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

1. 地域別発生状況

前週からの推移 (単位: 人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	435	➡	備 中	患者数	90	➡
	定点あたり	5.18			定点あたり	7.50	
岡山市	患者数	67	➡	備 北	患者数	56	➡
	定点あたり	3.05			定点あたり	9.33	
倉敷市	患者数	138	➡	真 庭	患者数	7	➡
	定点あたり	8.63			定点あたり	2.33	
備 前	患者数	58	➡	美 作	患者数	19	➡
	定点あたり	3.87			定点あたり	1.90	

【記号の説明】 前週からの推移: 2倍以上の減少 ↓ 1.1~2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 ➡
1.1~2倍未満の増加 ➡ 2倍以上の増加 ↑

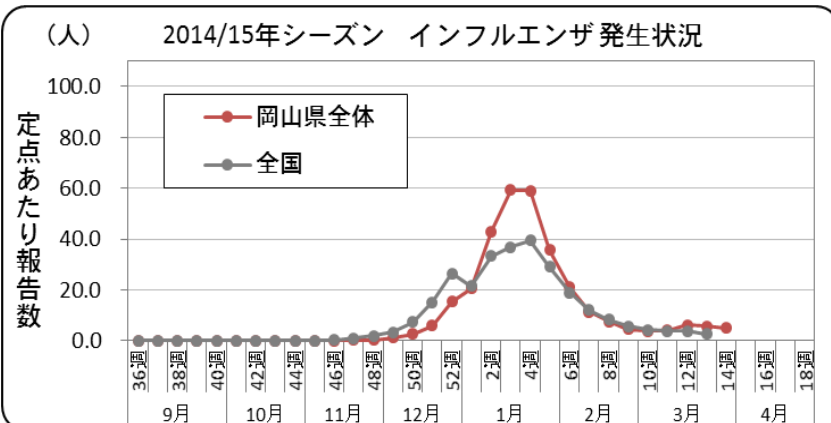
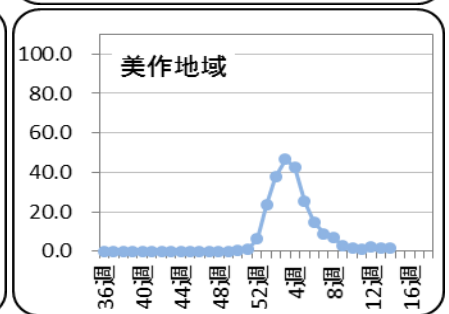
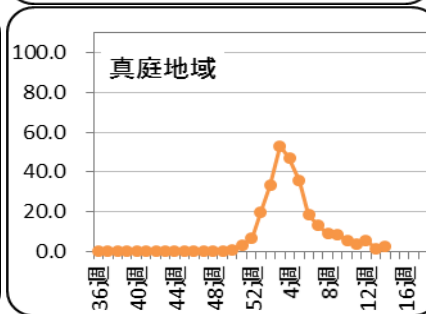
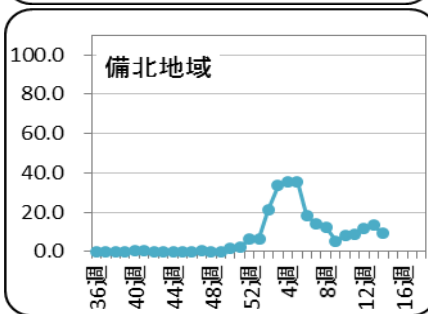
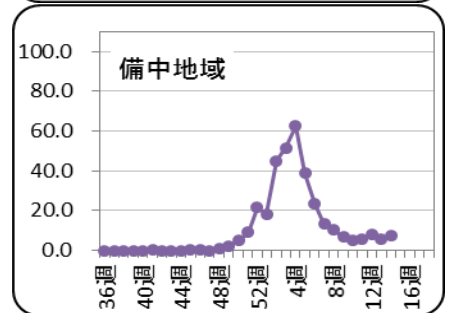
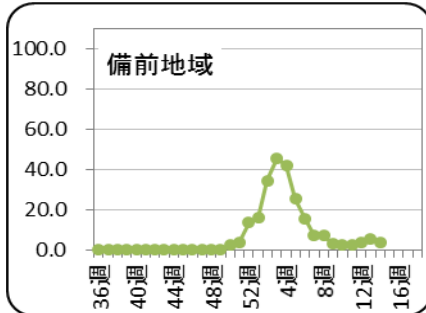
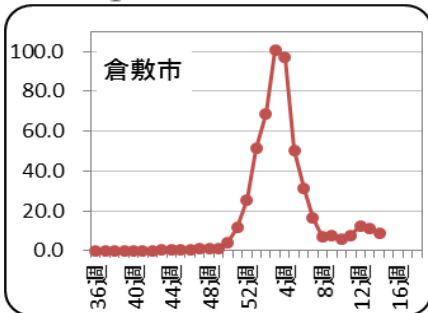
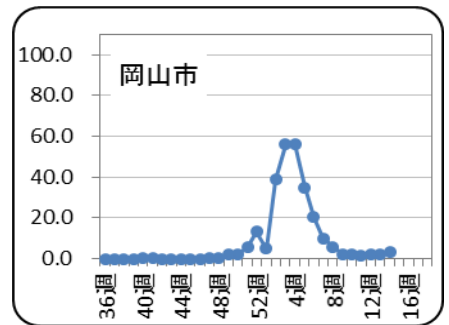
インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満

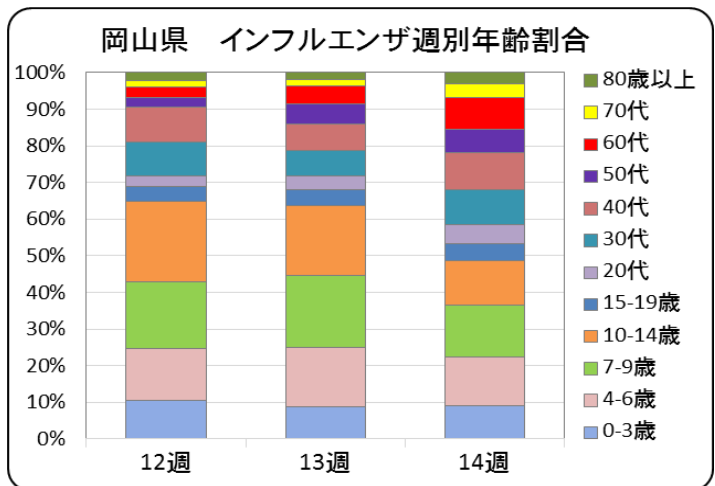
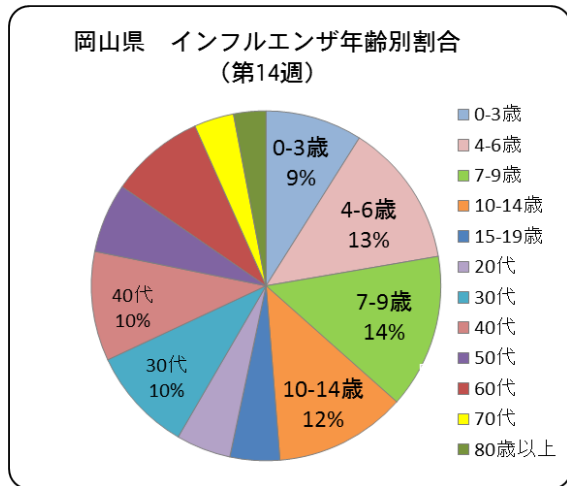
レベル1	報告なし
基準値	基準値
0< 10未満	0



全国の第13週(3/23~3/29)集計によると、全国の定点あたり報告数は2.63人であり、9週連続で減少しました。都道府県別では、高知県(6.10人)、岡山県(5.67人)、沖縄県(5.24人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、46都道府県で前週より減少がみられました。

2. 年齢別発生状況

第14週の年齢別割合は、高い順に7-9歳 14%、4-6歳 13%、10-14歳 12%となっています。若年層に比べて、成人の割合が増加しています。

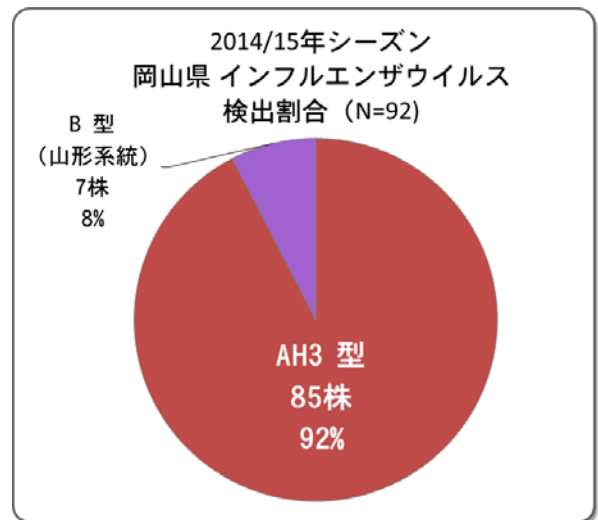


3. インフルエンザウイルス検出状況

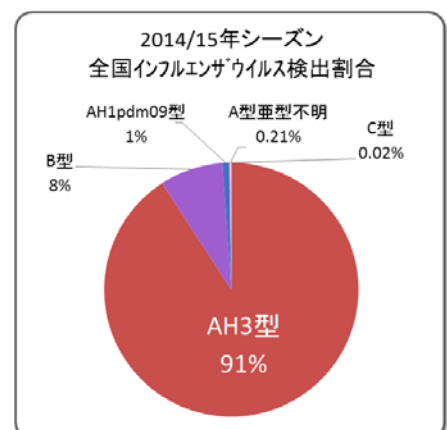
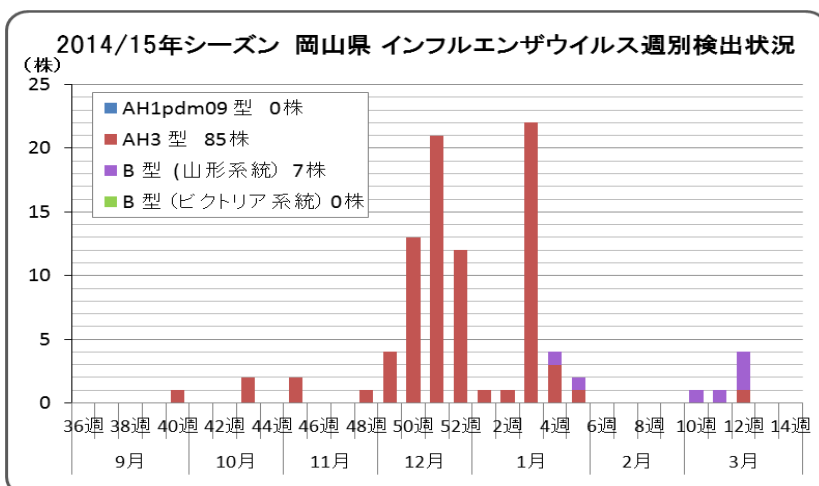
第14週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、AH3型が1株、B型（山形系統）が4株でした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が85株（92%）、B型が7株（8%）となっており、3月に入り、B型の検出割合が増えています。

岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、岡山県と同様、AH3型の検出割合が最も多く91%、次いでB型が8%、AH1pdm09型が1%の順となっています。（2015年4月9日現在）
[インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）](#)

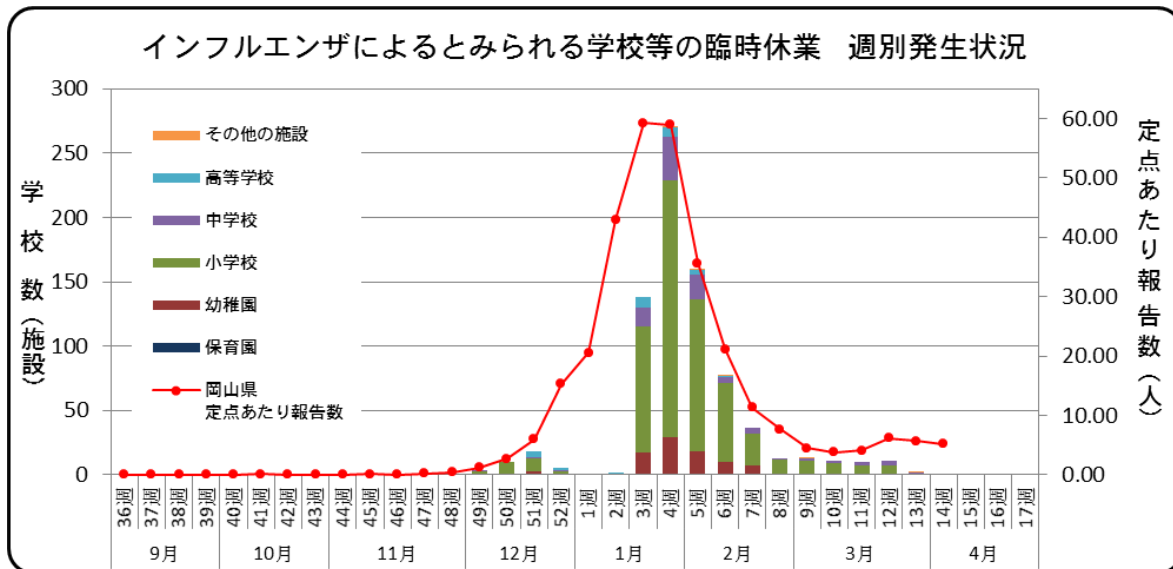


ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスB型	2015年第12週(3/16~3/22)	2015/3/18	岡山市	40代	女	山形系統
インフルエンザウイルスB型	2015年第12週(3/16~3/22)	2015/3/17	岡山市	中学生	男	山形系統
インフルエンザウイルスB型	2015年第12週(3/16~3/22)	2015/3/16	岡山市	40代	女	山形系統
インフルエンザウイルスAH3型	2015年第12週(3/16~3/22)	2015/3/16	岡山市	30代	男	
インフルエンザウイルスB型	2015年第11週(3/9~3/15)	2015/3/14	岡山市	中学生	男	山形系統



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	0	12405	0	9670	0	786	0	17	0	197	0	572	H26.10.21
岡山市	0	5037	0	3778	0	298	0	2	0	41	0	255	H26.12.1
倉敷市	0	2992	0	2444	0	165	0	3	0	25	0	137	H26.10.21
備前地域	0	747	0	627	0	61	—	—	0	23	0	38	H26.12.9
備中地域	0	1635	0	1303	0	130	0	5	0	53	0	72	H26.12.8
備北地域	0	351	0	196	0	14	0	1	0	7	0	6	H27.1.16
真庭地域	0	255	0	202	0	22	0	2	0	12	0	8	H26.12.16
美作地域	0	1388	0	1120	0	96	0	4	0	36	0	56	H27.1.13

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第14週：0施設

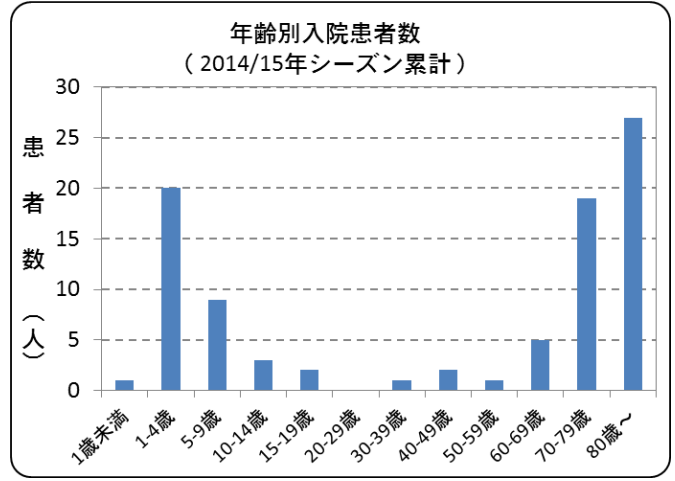
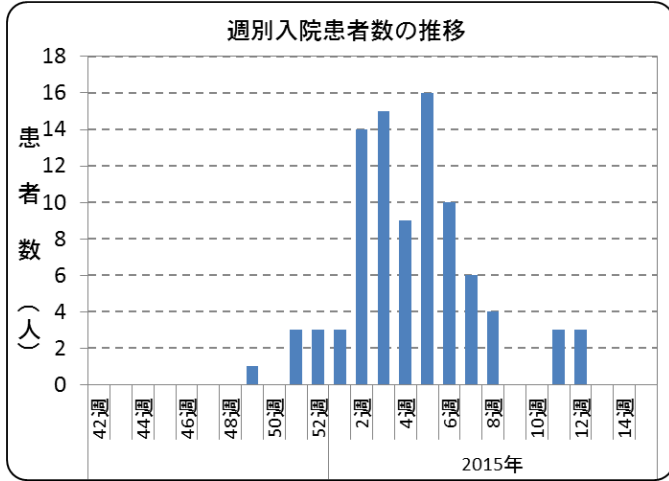
累計：786施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	86	0	575	0	95	0	25	0	5

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



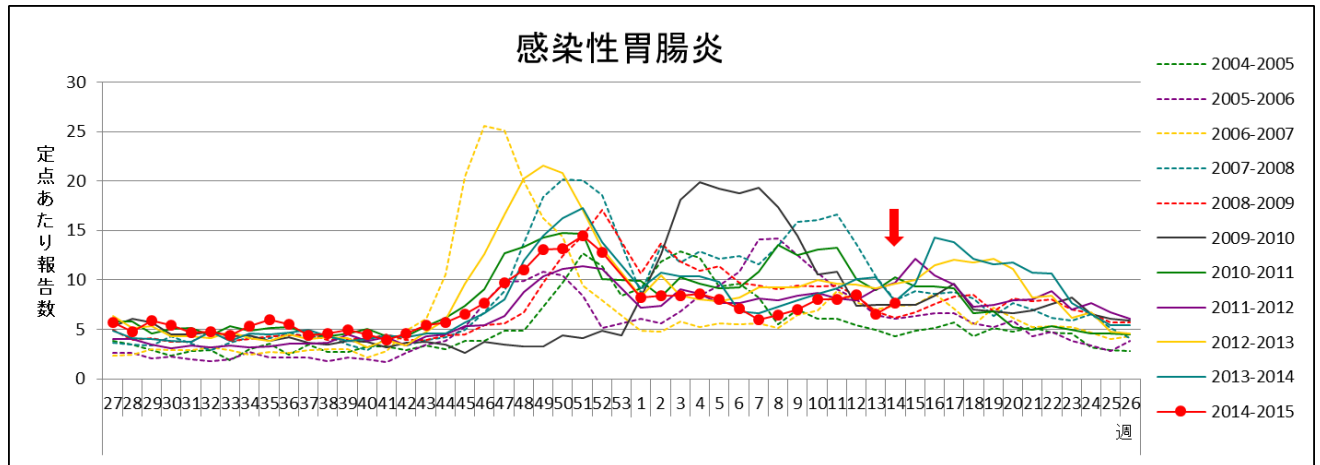
【2014年9月1日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	1	20	9	3	2		1	2	1	5	19	27	90
ICU入室											3		3
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査 (予定含)		5								2	4	3	14
頭部 MRI 検査 (予定含)		1		1							3		5
脳波検査 (予定含)		1									1		2
いずれにも該当せず	1	15	9	2	2		1	2	1	3	13	24	73

*重複あり

感染性胃腸炎週報 2015年 第14週 (3月30日～4月5日)

○感染性胃腸炎は、県全体で412名（定点あたり6.50 → 7.63人）の報告がありました（54定点医療機関報告）。



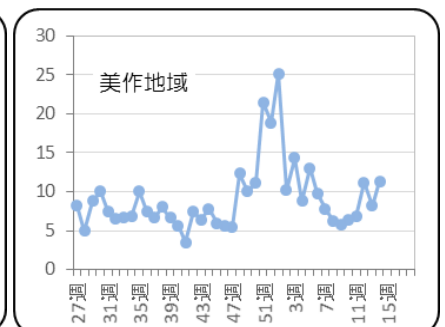
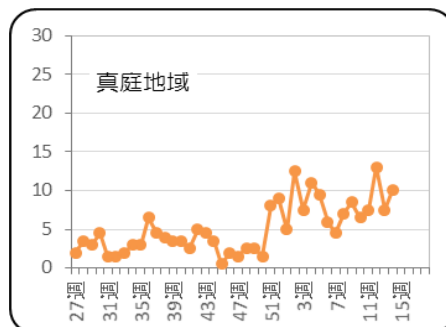
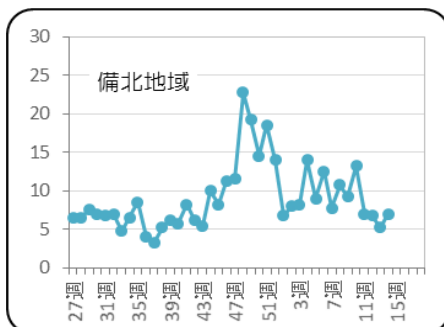
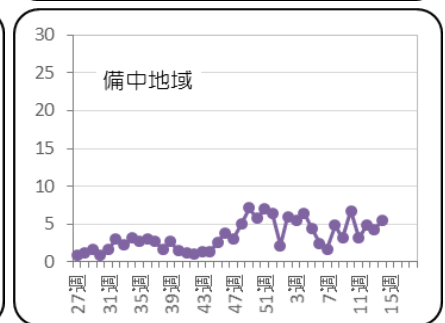
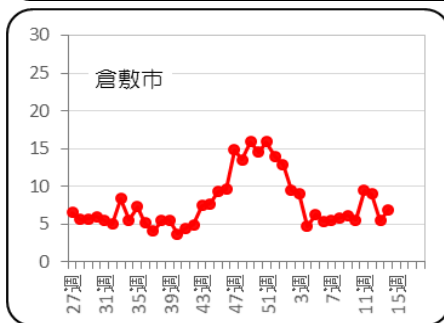
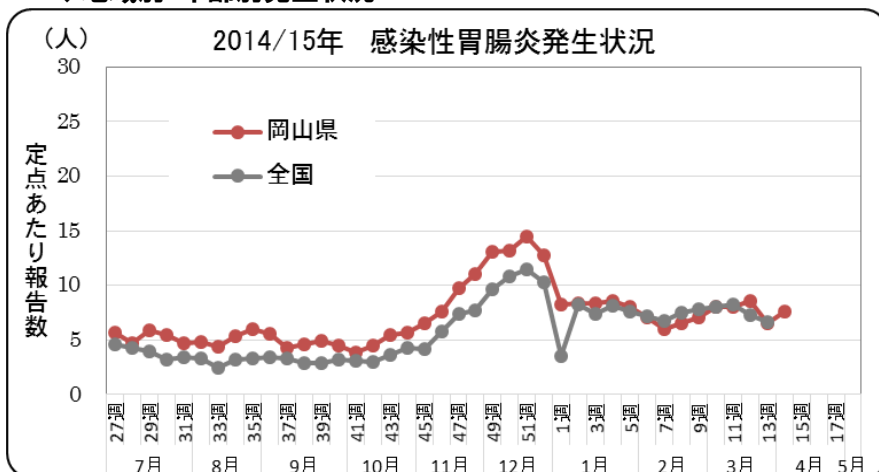
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

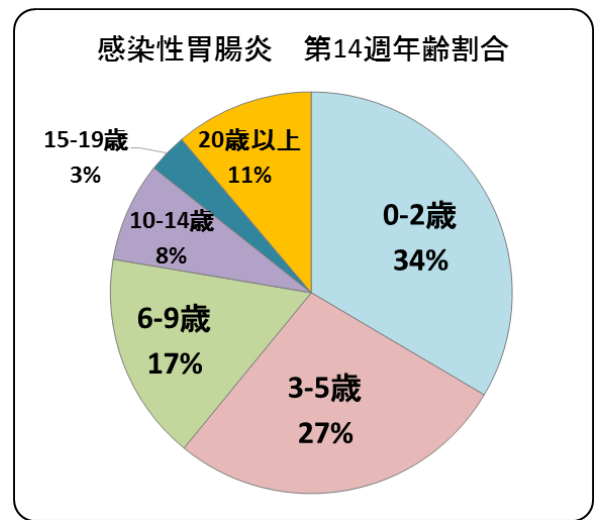
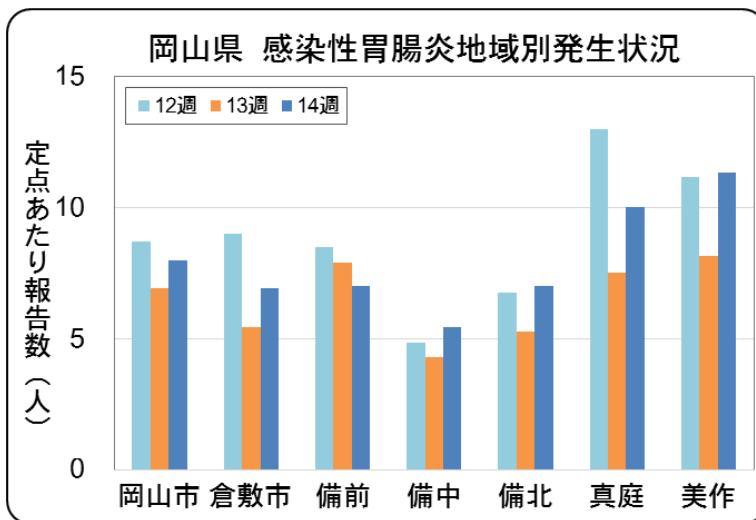
感染性胃腸炎は、県全体で412名（定点あたり6.50 → 7.63人）の報告があり、前週より増加しました。冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。排便後や調理・食事の前には石けんと流水で十分に手を洗う、下痢便・嘔吐物は適切に処理をするなど、感染予防と拡大防止に努めてください。

[ロタウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)

[ノロウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)

◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、美作地域（11.33人）、真庭地域（10.00人）、岡山市（8.00人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備前地域を除く、全ての地域で増加しました。年齢割合では、5歳以下の乳幼児が61%と、前週（54%）より増加しました。

例年3～5月には、0～2歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[IASR Vol.35 p.63-64: 2014年3月号 ロタウイルス 2010～2013年（国立感染症研究所）](#)

◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

- * 石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。
- * 患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。
- * 塩素系漂白剤などを使った消毒も、併せて行いましょう。
- * 通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともあります。体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

保健所別報告患者数(定点把握) 2015年 14週

(2015/03/30~2015/04/05)

2015年4月9日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	435	5.18	67	3.05	138	8.63	58	3.87	90	7.50	56	9.33	7	2.33	19	1.90
RSウイルス感染症	4	0.07	-	-	-	-	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	8	0.15	5	0.36	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	56	1.04	21	1.50	9	0.82	2	0.20	4	0.57	5	1.25	3	1.50	12	2.00
感染性胃腸炎	412	7.63	112	8.00	76	6.91	70	7.00	38	5.43	28	7.00	20	10.00	68	11.33
水痘	28	0.52	5	0.36	7	0.64	9	0.90	2	0.29	-	-	5	2.50	-	-
手足口病	23	0.43	3	0.21	17	1.55	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	10	0.19	8	0.57	1	0.09	-	-	-	-	-	-	1	0.50	-	-
突発性発疹	20	0.37	8	0.57	5	0.45	1	0.10	2	0.29	2	0.50	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	23	0.43	2	0.14	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	20	3.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	3	0.60	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.40	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数(発生レベル設定疾病) 2015年 14週

(2015/03/30~2015/04/05)

2015年4月9日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	435	5.18	67	3.05	138	8.63	58	3.87	90	7.50	56	9.33	7	2.33	19	1.90
咽頭結膜熱	8	0.15	5	0.36	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	56	1.04	21	1.50	9	0.82	2	0.20	4	0.57	5	1.25	3	1.50	12	2.00
感染性胃腸炎	412	7.63	112	8.00	76	6.91	70	7.00	38	5.43	28	7.00	20	10.00	68	11.33
水痘	28	0.52	5	0.36	7	0.64	9	0.90	2	0.29	-	-	5	2.50	-	-
手足口病	23	0.43	3	0.21	17	1.55	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	10	0.19	8	0.57	1	0.09	-	-	-	-	-	-	1	0.50	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	23	0.43	2	0.14	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	20	3.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	3	0.60	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第14週 2015/03/30~2015/04/05)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	435	-	5	11	10	13	15	18	25	19	20	23	53	20	22	42	44	28	38	16	13

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	4	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	8	1	-	4	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	56	-	-	2	2	6	12	10	4	2	5	4	4	3	2
感染性胃腸炎	412	1	19	72	46	40	38	35	29	13	14	13	33	13	46
水痘	28	1	1	6	2	8	1	1	4	-	1	1	1	-	1
手足口病	23	-	2	9	4	2	5	-	-	-	-	-	-	-	1
伝染性紅斑	10	-	-	-	1	1	-	1	2	2	2	-	1	-	-
突発性発疹	20	-	12	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	23	-	-	3	1	5	3	2	1	3	-	2	-	1	2

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

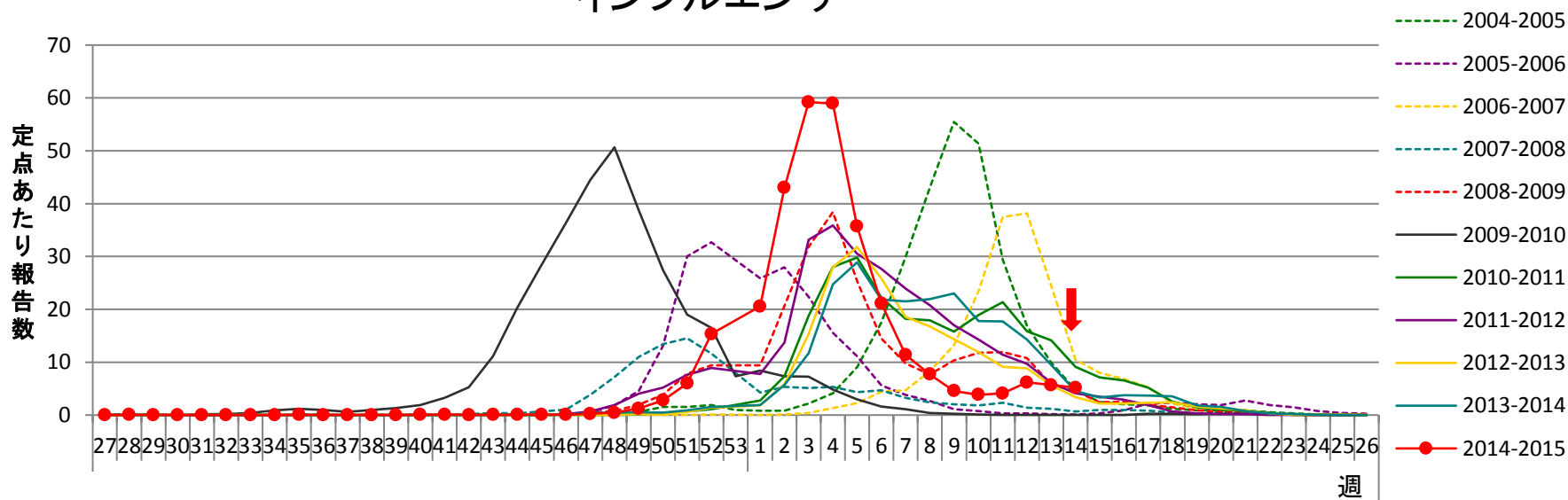
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

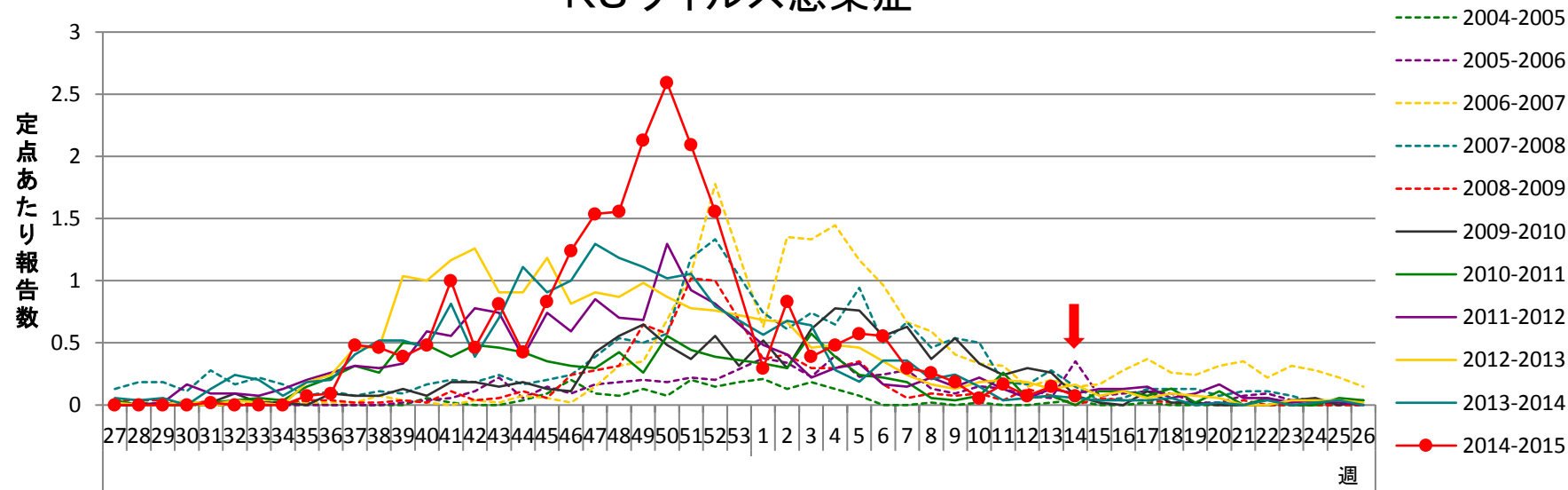
2015年 14週

分類	疾病名	2015			疾病名	2015			疾病名	2015		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	75	383	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	2	70
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	2	8
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	4	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	6	32	レプトスピラ症	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	5	12	ウイルス性肝炎*3	-	3	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	10
急性脳炎*4		-	5	9	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	-	3	後天性免疫不全症候群	1	6	21	ジアルジア症	-	-	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	-	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	12	27
水痘(入院例に限る。)		-	-	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	3	21
播種性クリプトコックス症		-	1	1	破傷風	-	-	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	2	風しん	-	-	2	麻しん	-	-	6
薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-		-	-	-		-	-	-

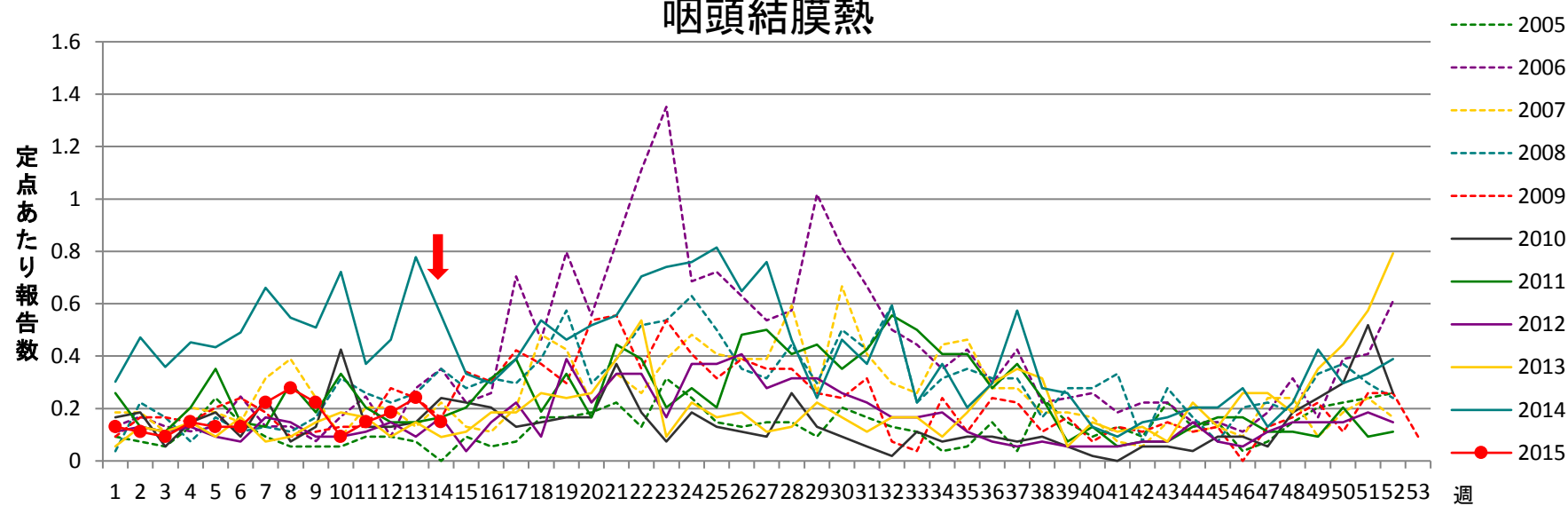
インフルエンザ



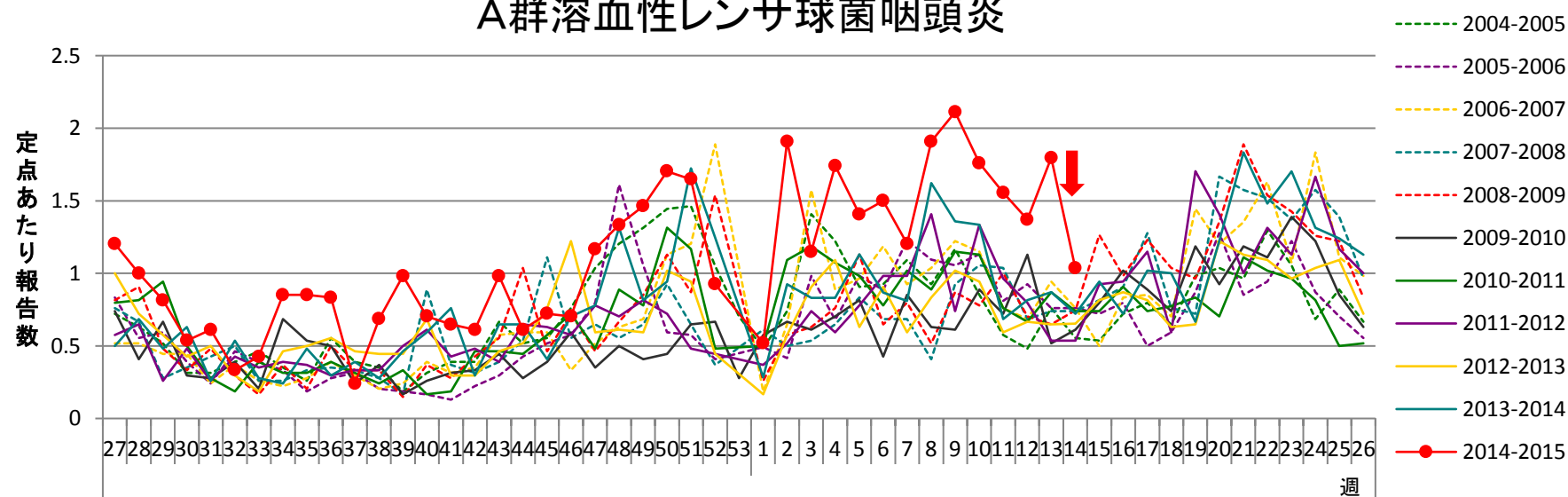
RSウイルス感染症



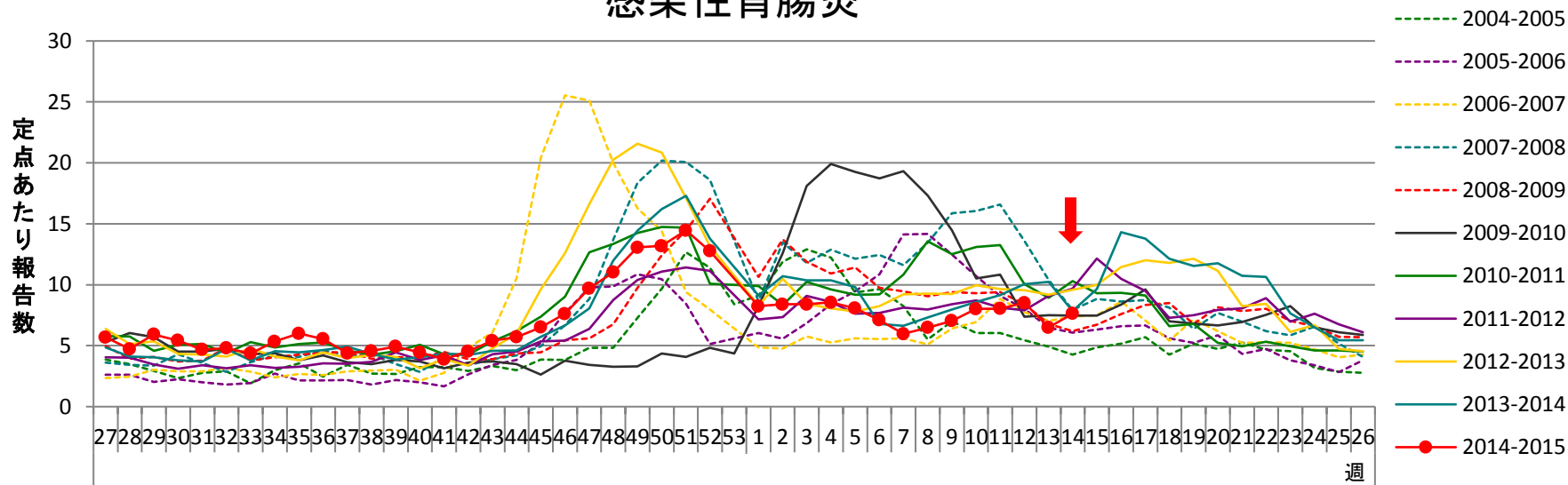
咽頭結膜熱



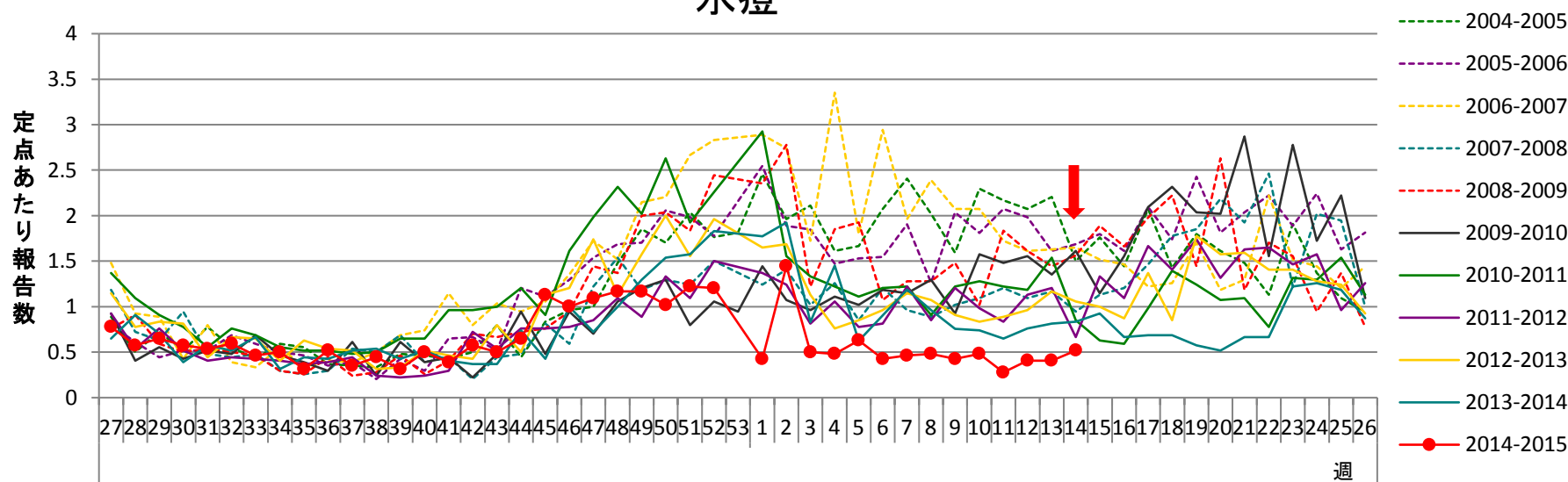
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



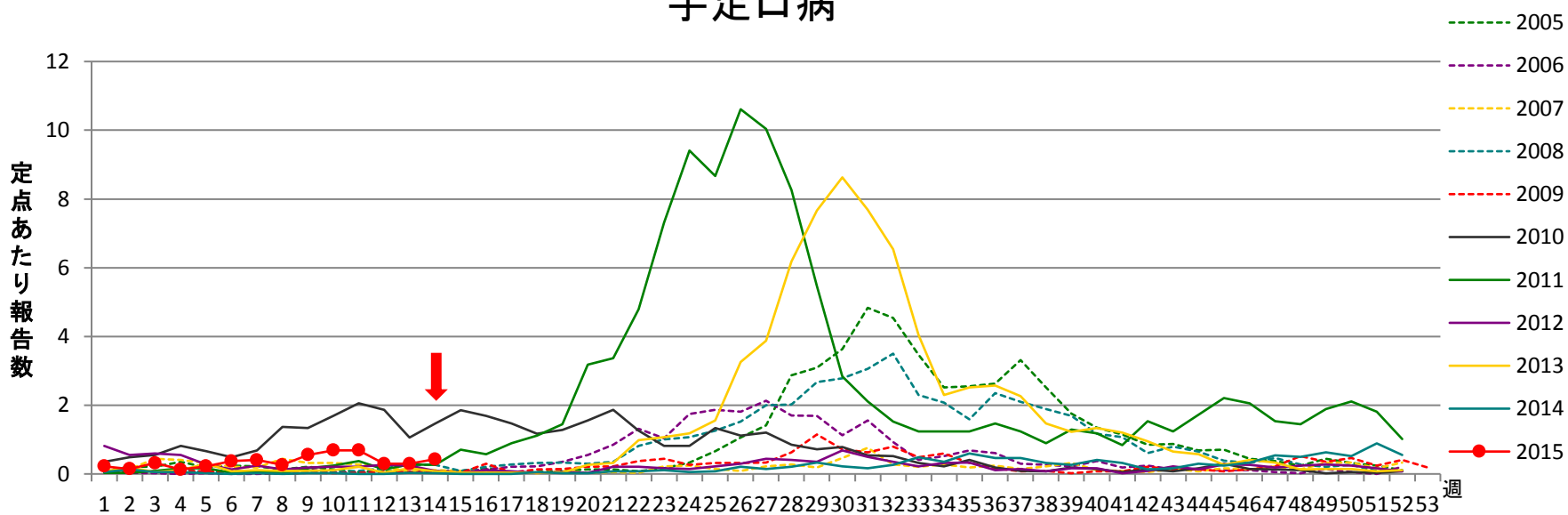
感染性胃腸炎



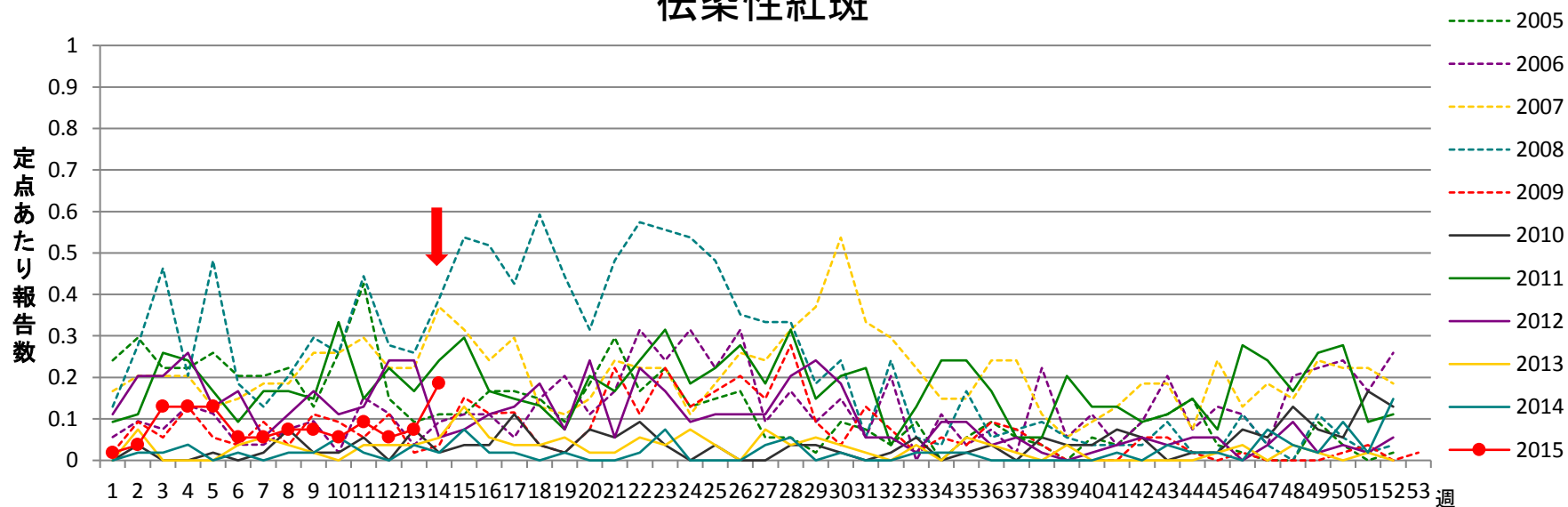
水痘



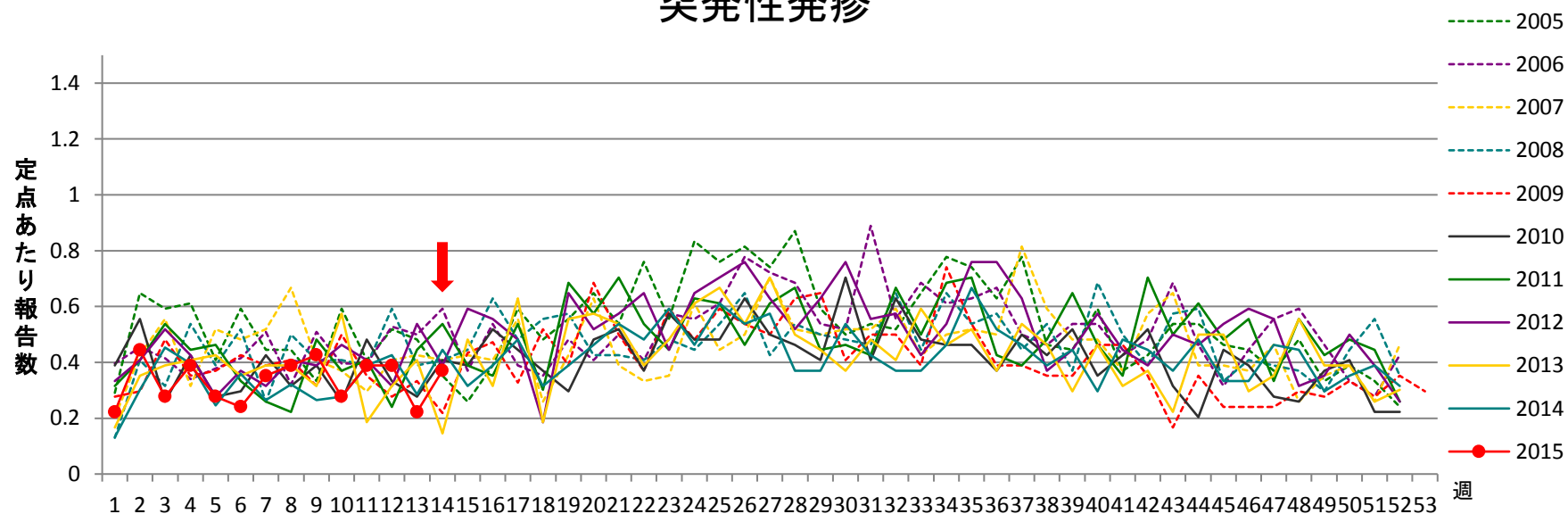
手足口病



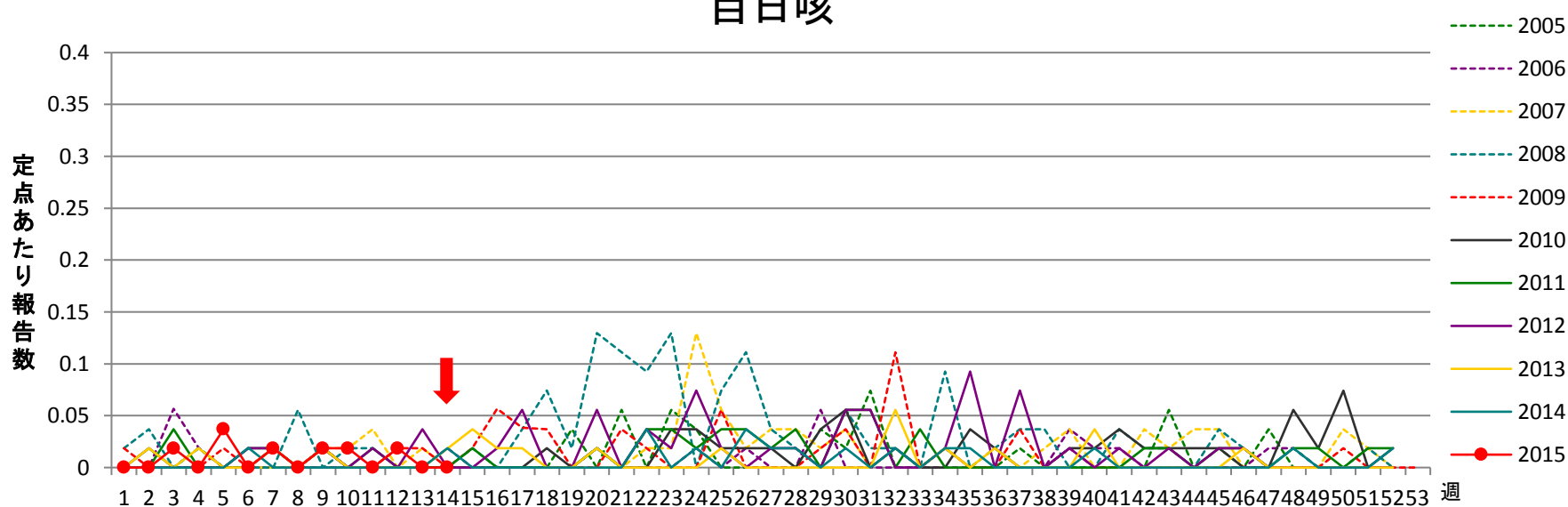
伝染性紅斑



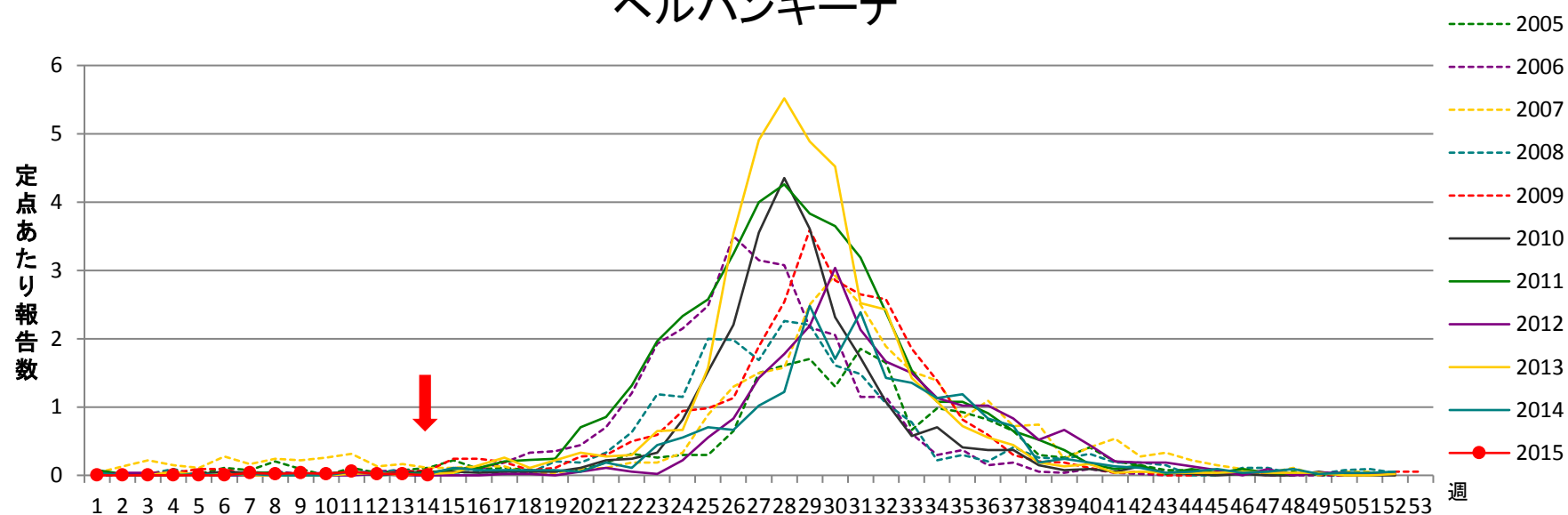
突発性発疹



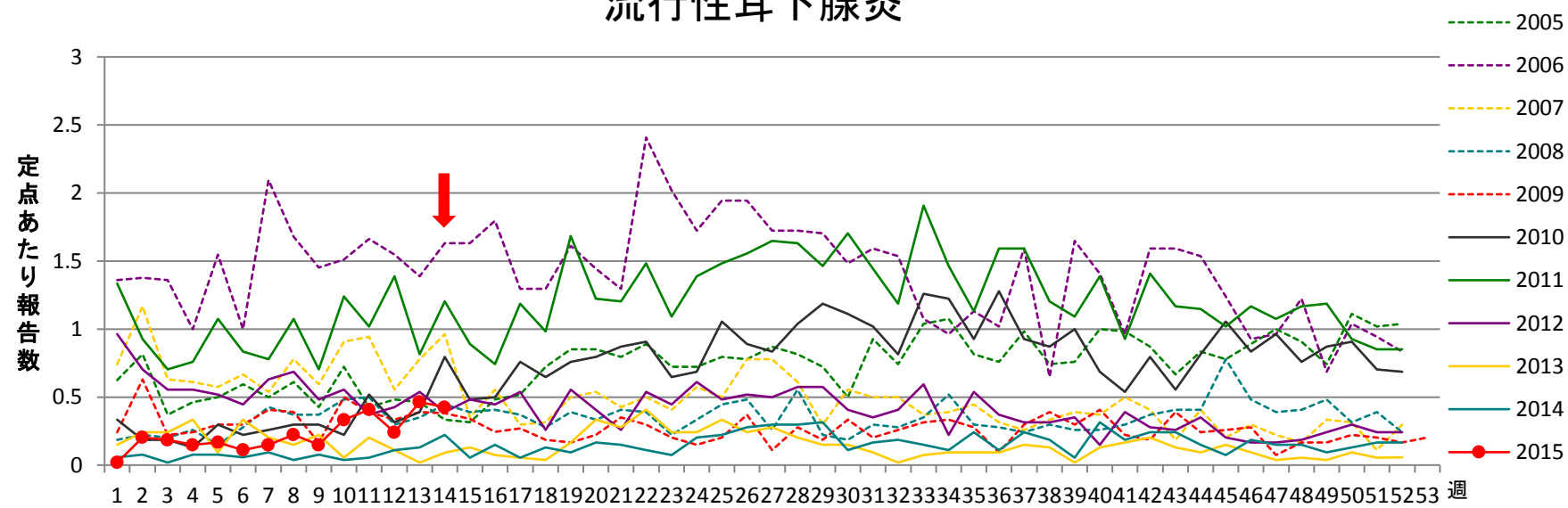
百日咳



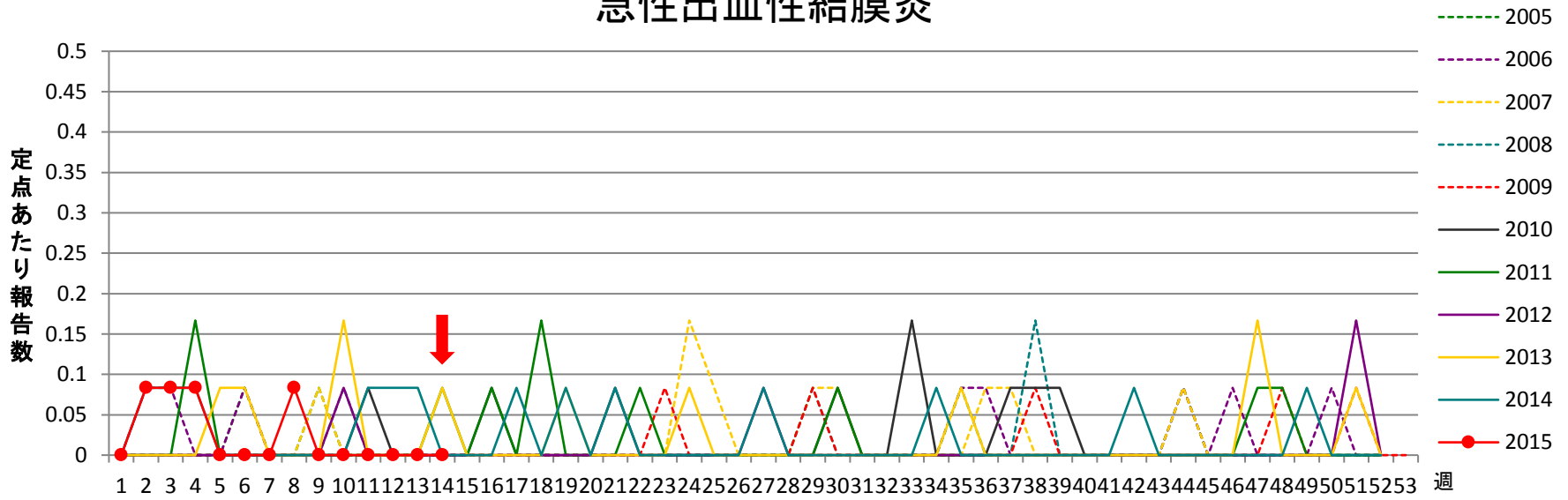
ヘルパンギーナ



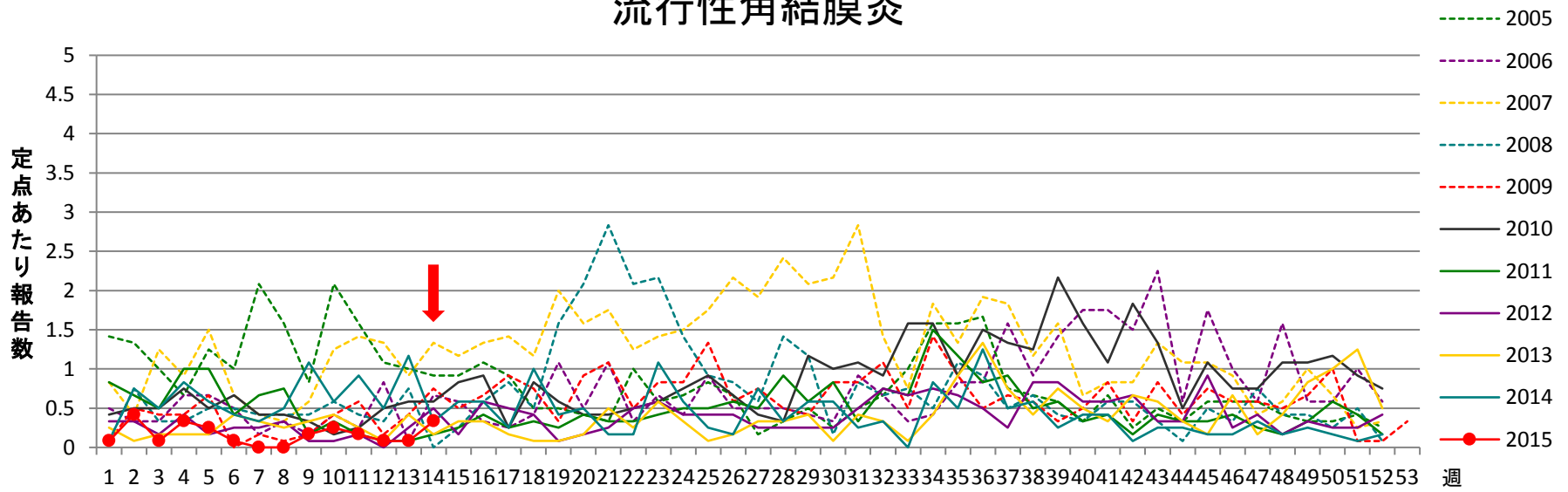
流行性耳下腺炎



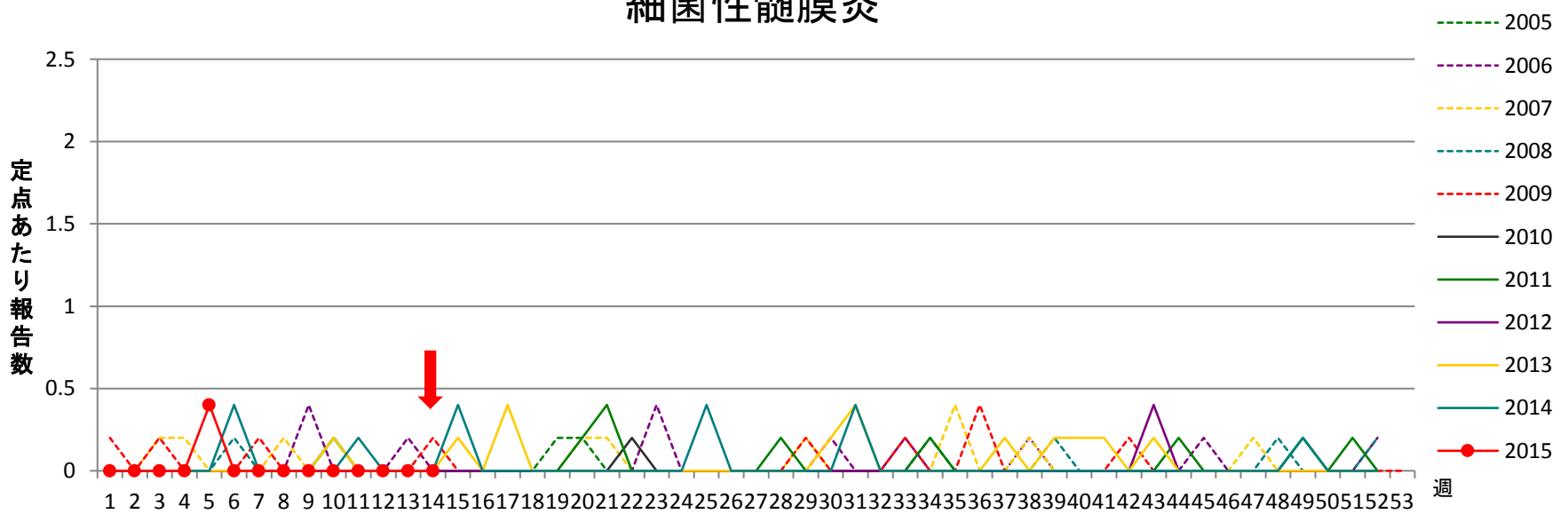
急性出血性結膜炎



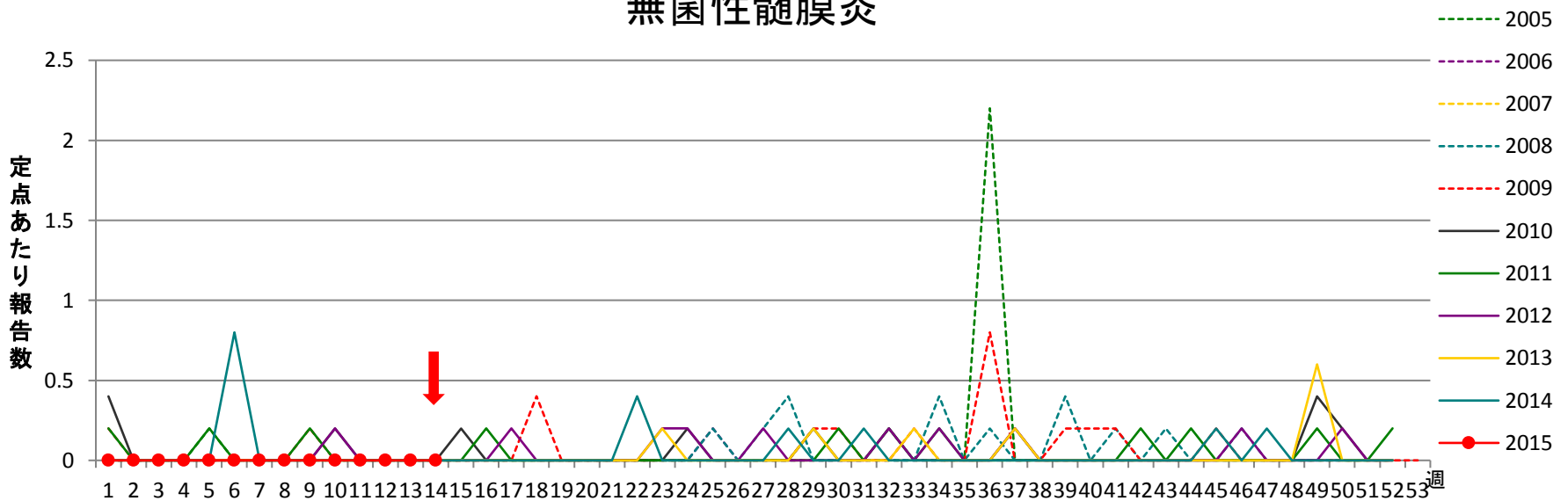
流行性角結膜炎



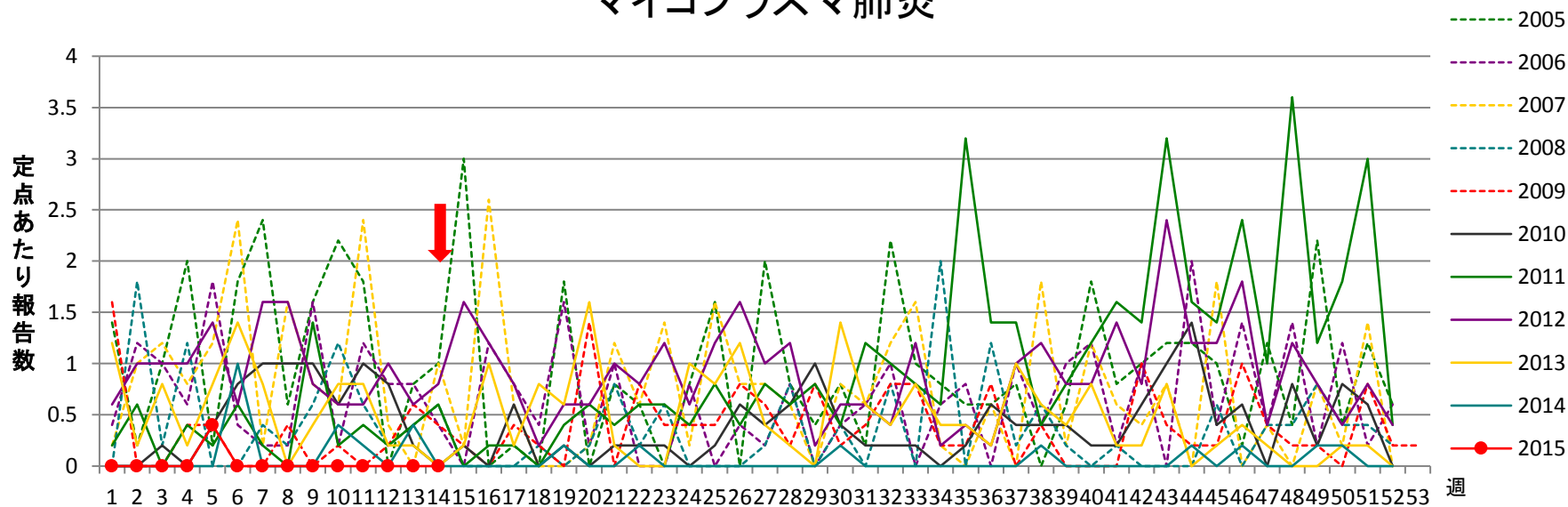
細菌性髄膜炎



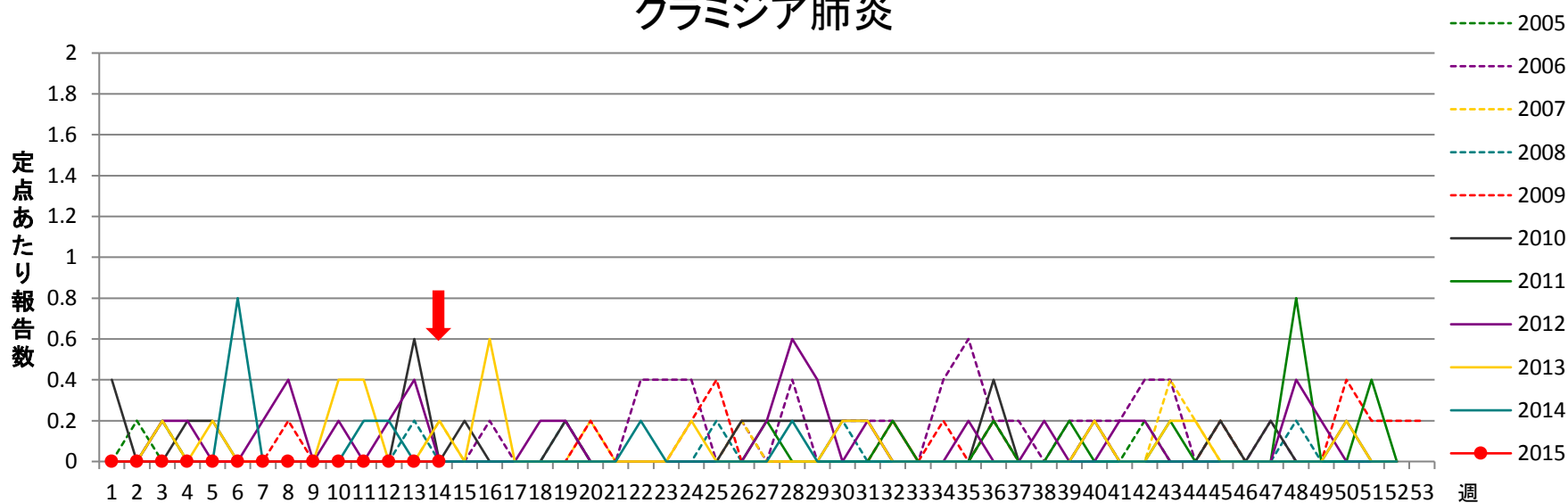
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

